

# 大浜街道の謎に迫る

安城市立 桜町小学校 6年 田中翔

## 1. 動機

- ① もともと城郭に興味があり、それがきっかけで街道に興味をもちた。
- ② 安城には大浜街道という街道が通っているということを知り、その街道がどのようなものか知りたくなったから。

## 2. 目的

大浜街道のことを調べているとほとんどの道筋が不明であることが分かった。よって大浜街道の道筋を調査することで大浜街道が現在の安城にどのような影響を与えたのか知ることができると考えた。

大浜街道  
塩を大浜(現在の碧南市)から信州(現在の長野県)に運ぶための街道である。

## 3. 予想

① 分かっていること

- ・江戸時代、現在の宇頭茶屋町付近には東海道が通っており、それに交差するように大浜街道が通っていた。
- ・安城村(現在の安城駅周辺)、箕輪村(現箕輪町)、高棚(現高棚町)をへて、高浜(現高浜)に通じていた。
- ・光明寺(箕輪町)の前の道がかつての大浜街道である。

② 分かっていることから考えたこと

上記の集落を通り、大浜に至っていたのだと思う。また、現在も大浜街道の跡の道は他の道とは違う特徴があるのではないかと考えた。

## 4. 準備

用意したもの

- ・地図…地蔵堂、道標、メモなどを書き込む。
- ・カメラ…街道に関するものを撮影するために使用する。
- ・ペンは…調査した、予想の大浜街道を書き込むために使用する。

## 5. 方法

通っていると言想した集落の間の地蔵堂の位置を調査し、その間の道を大浜街道とする。また、道標なども手がかりにする。  
そして、現在都市化が進んでいる地域では、寺や神社も手がかりとする。

地蔵の役割

① 旅人の無事を願う

② 道標



## 6. 結果

大浜街道は高棚町→北町→榎前町→福金町→箕輪町→横山町→昭和町→新田町→今池町→東栄町→字頭茶屋町を通過して孝母(現豊田市)に至っていた。

また、街道と言想した道は他の道とは違う特徴があった。具体的には道が川に浴っている、道がまっすぐになっていることなどである。

## 7. 分かったこと

① 大浜街道の通っている場所を見ると周りの土地よりも高いところを通っていた。

② 東海道や中山道などの街道との共通点がたくさんあった。(周りに寺社がある、道が川に浴っているなど)

③ 大浜街道が通っていた安城村は現在安城市の中心地

となっている。

## 8. 感想

今回、塩の道「大浜街道」のルートを知るために様々な調査をしました。そこから見えてきたのは今も昔も道は人々の暮らしになくてはならないものということです。

今に比べて塩が貴重だった昔には内陸部に塩を人力で運ぶというのは自然なことだったと思います。塩が簡単に手に入るようになった今では、この道は人が通る道へと変化しました。だからこそ、その存在を知ることによって昔の人の思いに迫れたと思います。

今回の経験は僕にとってとても良いものとなりました。

## 8. 参考文献

- あいちの街道ひざぐりげ(1983年) 著者 谷影
- 忘れられた街道(2006年) 著者 中根洋治



東海道  
日本橋〜三條大橋をつなぐ道。平らな道が多く年間を通して通行が可能だった。安城市にも通っており、茶屋(休憩所)が存在した。